

NO. 106

泉南走ろう会

連絡先 泉南スポーツ社
0724(83)4653

「機関紙とは何か」

会長 遠健三

「閑和休題」マランシリーズも終わりました。そこで毎々「機関紙」に汗かいて汗かいて「レド」は兼ねてから思っていることを記したい。それは「機関紙」とは何かです。さきに「機関紙」発行の0号記念とかで御祝の御言葉や励ましの言葉を賜ったのですが、私は手放して喜ばない。私は卒直に言えて「機関紙」は余り読んでいないとは思えない。私の知人に「こんな機関紙を私達の会は発行している。暇があれば読んで見て」と渡したことがある。二回程は読んで下さったのですが、次からは読んでいない。何故ならば、毎号あるたう記事ばかり、外の人は一つも書いてない。読んでみようがない。それまでは言わなかったが、恐らくはそうでしょう。

それならば何う為の機関紙か、そもそも「会」とか「機関紙」は出来た時、一号発行したときは頂上で往々にして、何時までも、会が有名無実となり、機関紙の号発行が上の都です。それなのに、何故一〇号発行出来たかとならぬ

ですが、機関紙とは目的達成のための手段。伝達方法の一つだからです。例えば、例え何を何時行なうか、それは何処で、何時からを伝える。ならば、口頭または電話でもよいのですが、文書で連絡する。すなわち、「機関紙」です。いちがいにそうとはいえないが一言で言えばこうなる。果してそれだけではないでしょうか。会の目的達成それには「皆さんどうすれば楽しいのですよ、皆さんどうしましょう」と会員の皆様に知らず許さず行く。私は、どういつ大会に参加した。それはこんなんであった。また私は、こんなことを考えている。こんな詩も出来た。と「機関紙」に発表してもらえれば、あれあの人、あれあいつがこんな心の優しい人、こんな事を考えているのか、またこんななまじつトレニングを行っているのかと知ることが出来、会員の皆様の親睦、ランニングの励み向上につながるのではなかろうかと思われます。

喜びとは、人に分つものではなくてはならない。そうすれば喜びは倍加する。

「機関紙」発行 編集には毎々私はすまなく思っております。私の偏見独断の記事ばかり決して「機関紙」は一人の紙面独占、上から下への一方交通であってはならないと思っております。外にも色々「機関紙」とは何かと長々といいたいのですが、紙面の都合上止めます。

要は会員の皆様が色んな原稿を待ちしております。毎月十五日までに、走ら

う会事務局へ届けて下さい。辛いと存じます。走ることも外の何でも結構です。そうすれば充実した「機関紙」になるのではないのでしょうかと思えます。「走りながら考える故に我あり」プラクトン。



「阿蘇スーパーマラン」に出場して

栗野原 泰正

ANAの7便に乗り、20分程たつと機内放送が聞かなく左下に頼戸大橋が見えます。何と速いよ家から空港まで瞬間弱かかるのに飛行機とは時間を金で買う乗物と誰かに聞いた気がする。と放送。生憎く席が中央で外は見えず熊本空港に一時間着く。天気は曇り、バスに乗り、明日のコースの下見。オ一回大会の為に、我取りが悪く大型バスが入れない細い道もあり全コースは廻れなかつた。一度廻りを走っているのが今頃は十時間を切ると意気込んでやってきました。コースを見ながらアッポガの連続で今まで走った事のないハードなコースだ。これは十時間どころか前回のタイムより悪くもれなと思つた。大会当日は一緒に参加した走友のA氏とバスでスタート地点の東急マダララントに向う。ここでもバスがスタート地点

をまちがい、又準備も遅れ、十五分遅れの六時十五分スタート。高石ともや氏が招待選手として来ていた。奥さんは女リンドで伴走。A氏と圓堂の静岡のB氏と三人で一緒に走る。エイドステーションが50km毎にあり、中間点50km毎に給食所があり、暑かったので助かった。途中村々を通る時応援の声をかけてくれて、元気が出たがそれにしては平坦な道はななく90kmをすぎた阿蘇町の10km弱にしかなく、まさにスーパーマラソンだ。おぐさから福岡の青羊も交えて、又で一緒に走る。おぐさで昼食のにぎりめしを食べ各エイドステーションではストロミチと頭や足氷をかけた肉を冷やす。たぶん一人で走ったの歩いてばかりしていたら、昨年のサロマ湖に比べてもハードなコースだ。50km地点で靴を履きかえて、水道の水で足をアイシングしてから後半のスタート。60km付近で50km組の前日夕食が帰ってきたスイス人にカンベツと声をかけられ振られる。相手はスタートしたばかりだから元気だがこちらはまだもうフツフツだ。おぐさのギョーイ登りのあとは高原の芝がマウンテンだが、おぐさかっは噴煙が上り、牧草地帯には牛が放牧されていて景色はバツグン。90km前の山上から見おろした阿蘇町の町並や水田が蒸籠の目の様に並んで夕日が水田に当たり、キラキラと輝き、それは見事なコントラストを造っていた。下りは四人ともガンケン競はレマ、10人近く抜いた。ゴール前の三角形の建物が見えたとき、あ、これがゴールだ。もう走らなくてすむ。こ

三三〇三

れが実感だ。ゴール後に温泉に入った時の気持ち、何とも言えなかった。それにゴールの味、いい。七時すぎからの定走パーティーは高石ともやの司会で始まり、体育館は選手や関係者で一杯になり、阿蘇の大会や表紙式それに全員が当たる阿蘇の特産物、歌や飲み放題、喰い放題で大変楽しかった。今回思う事は、神鍋の様に走ろう会の人々と一緒に走ったウモ、楽しかったらと思う。あくる日は梅雨に入り、雨になったが、一人で水前寺公園へ↓熊本城を回って、半分熊本登で大阪に帰る。大変キツかったが地元の人達が親切でサービスもよもう一度挑戦しようかな？



一、栗野原さん、またまた100kmラング完成するまではお目出度う。先にもお知らせしましたが、今回阿蘇カルテラス、ペーマラソン大会に参加、北海道サロマ湖について、2回目100km好タイムにて完走しました。世界一。カルテラ阿蘇山麓100kmを自分の限界にチャレンジ、熱く噴火、自分との戦い。科学的に合理的にトレーニングを積みその結果だと思われ、敬意を表します。以上お祭り整理をしながら、体に充分注意されるようお祈りします。

二、富士登山競走に真鍋さん御夫婦として、七月二十三日参加を予定しております。これはマラソンでもなく、登山でもなく、ゲテもの大会だと思われ、頂上に行くにつれ、高山病、寒さとの闘い、カンベツあるのみ体に充分注意して参加します。御期待下さい。本日のレースは普通のトレーニングでは駄目だと思われ、私に秘策あり。① トレーニングに遠慮みま。

和歌山県加太合宿トレーニング実施要項

- 一、目的 会員相互の親睦とトレーニングの強化
- 一、期日 六月二十三日(土) 六月二十四日(日)
- 一、泊二日 雨天決行
- 一、場所 和歌山市深山四八三
- 一、経費 加太国民休暇村 〇七五(四)五九〇三三
一人、一五〇〇〇円
(清算とします。余れば返金、不足は徴収)
- 一、参加方法 六月二十三日(土)午後一時四十分
榊ヶ原前集合
JR新家駅十三時三十分乗車、砂川駅下車、砂川駅前十三時二十九分榊

合宿日程表

6月23日(土)

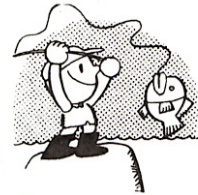
16:00 日程説明
 16:10 荷物整理
 コーヒー説明、準備運動
 16:30 宿舎(小島)まで
 往復約10kmランニング
 18:00 入浴
 18:30 夕食
 20:00
 22:00 就寝

6月24日(日)

6:00 起床、洗面
 6:30 準備運動
 7:00 宿舎(淡島神社)まで
 約8kmランニング
 8:00 入浴
 8:30 朝食
 9:00 帰着準備
 10:00 帰着出発
 12:00 解散

ホ、持物、洗面用具、ランニングウェア、着替
 (三三三五)の
 へ、電車等にて、直接宿舎に行かれる方は
 事前に走らう会事務局(泉南スポーツ社)ハニ、四、五、三へお電話して下さい。

※ 駅行バス乗車
 口、細井さん、真鍋さんの車にて駅まで
 八、加太十六時頃、到着予定。
 ニ、電車にて行かれる方
 加太よりマイケルバスあり
 (15:35 16:10 16:40)



※ コースは上りあり、カーブあり大変なコースです。また車の往來が烈しいので、最大の注意を行い、一列にて道路右列ランニングを行って下さい。
 本尚、当日体の不調な方は、のんびり付近で魚釣りでも行って下さい。

お知らせ

一、六月二十四日

才四日曜日、例会日ですが、加太合宿トレーニングとします。(七名参加)

一、七月八日

才二日曜日 例会日

新家裡河神社集合

一、コース

新家——上之郷滝の池ハドコース

一、会員紹介

宮下哲様

信達市場八九三〇三七六号

TEL 八二四三三五

備考

泉南走らう会恒例参加、神鍋高原マラン大会は今年も八月二十六日に開催されます。会員の皆様、楽しく多教参加——ようらう